

金倉秘傳集

番外書册

		二四九三	和書門
一	函	架	類
四	册	架	類

庫	文	閣	内
九	二	四	和
五	四	九	書
函	三	五	類
四	四	三	
架	册	號	

(三中)

内閣文庫	
番號	和 24953
册數	4 (3)
函號	195 83



疵養性之次第

淺草文庫

一 疵ヲ見ル様無性ニナリタルニハ青メナル

石ヲ燒テイカニモヨキ酢ノ中へ入テ其

息ヲカス（鼻ヲヒヌニカハルヘカラス

一 凡根ノ白キ処ヲソト指テミルニ血ノタル

ハコレヲラスハ大夏也一其ノ時血ノ石

ナトニカリテ血ノサエテサツト散リ

タルハヨシ又コリリテチラサルハ必ス悪

氣付菜

一人参 耳草 蒲黄 胡椒 少 舌上ニ

一 置テヒリくトスルホト入也 其ヤハ
檜ノ著ニ指テアフル也 蒲黄ハホイ
ロニツトカケヘシ 調合メ水ニテ可用之

白菜氣付

一 瓜ゴシ草 二兩 葛粉 一兩 川骨 三兩 燒塩シ

右能くスリ合テ酒ニテチトヨフ程其
人ノ氣根ニヨリ吞セヘシ又水ニテモ湯
ニテモ可用茶一色ホトツマ可也

同氣付

一 ヒツチハエノ菜ノ白クシテ寒此日凍ラセ

テ粉ヲ水ニテ耳カキ一ツ、可吞也

血留茶

一 八重山フキノ花ヲカケホシニシテ茶ウ
スニテヨクくヒキテ耳ヤサ加エテ耳
カキ一ツホト各ノ上ニ置ヘシ勢ニ疵ニ
不可付

同血止茶

一 土龍ノ腸ヲ取テ紅ノカスヲフミガテ
ノホ又金ノ扇ノフリタルヲ入黒焼ニメ
捨リカタル也

一麒麟血ヲモ拾リカクル也一七八草
ヲモ痲口ニ可付也一杉原ヲ黒焼ニメ
血ノ出ル処ヲ物ニテシメテ頓テ可付
也又出ニ指ニテソト血ノ出ル処ヲ押
ヘテハヤク茶ヲ可付也

血下十二粒茶ト也

一巴豆一粒飯十二粒ヲシテセテ十二粒ニ
丸シ葛粉ヲ衣ニ可成又ハ朱シモスルカ本也

同下茶 木每丸

一梅子一ツ茶一包コウシロイ 梅子ハサ子

一梅子一ツ茶一包コウシロイ 梅子ハサ子ヲ
ステ上ノニク討取テ頓テ其梅ノシルニテ
丸也・ヨキ茶ニテ吞也ツヨクツマリタルハ
松茸ヲコニメ可加衣ニハカノスミヲウスク
カケシ是ニテモ下ラスハ又梅子一ツ茶ニフリ
タテ、可吞新茶水茶ハ可禁

金气流

一観音錢ヲコニシテミトブレヲ合テ水ニテ付シ

痲付茶之麦

一人参少 耳草少 鹿ノカラ角 黒焼是ニテ

一カサヲアタル也

一田ニシノ黒焼大日コカキノサ子ノ黒焼大日

一フ復角ノ黒焼少湯玉少七月草少

一イカノカウ鳥ノ黒焼女入ワタハシラステヘシ

一女髪ノヲチノ黒焼熊タカノ黒焼ホソノヲ黒

一天中クス右是ヲヨククコニシテ胡

一夕油ニテユルクトトキカラスノ羽ニテ可付上ニ

一青木葉ヲ付ル也是ハ夜二度晝二度可付

一替又シハヲ付明ハ葉黒クナラハ取替ヘシ

同疵茶

一耳白貝ヲ焼ケ胡ノ油ニテツケヘシ

同疵茶

一狼ノホ子ノ粉 菱コノヒルノコノ弁ノコイタ、

一キヲコソケテ是三種ヲ等分ニ合疵ニ捻リ

一入ル也矢目ナトニハ夕顔ノサ子ヲワリテ中ノ

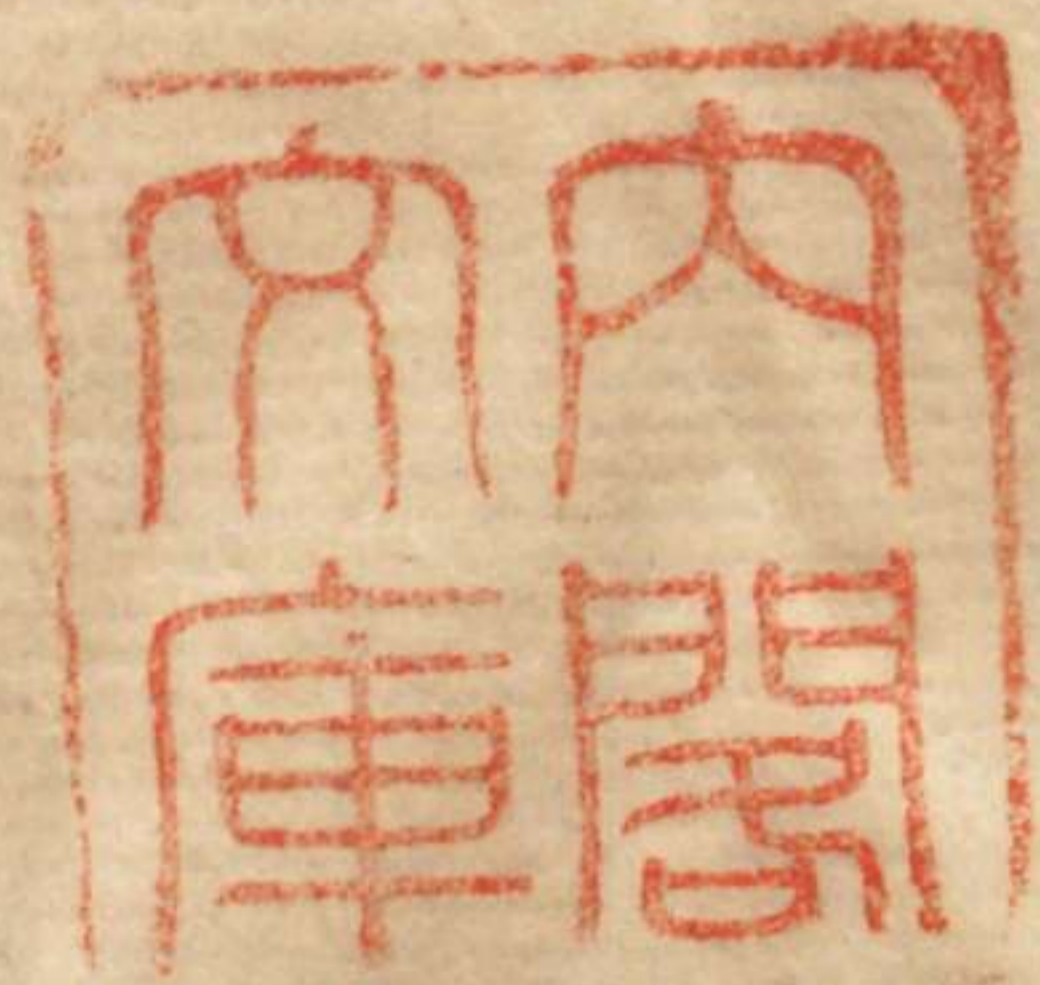
一実ヲ取テ子ヤシテ此茶ニ加ル也是ハクルニ

一△疵ヲナシスヘシ 菱ハクスヲ加ヘシウマス

一マシキタメナリヒエナリ冬ハヒカヘシ

一同疵茶 田ニシヲイキナカラ取クワ木ノア

一ハタヲキサミ入黒焼ニメ胡ノ油ニテ付ヘシ



一 黄檗ヲイカニモ少煮シテシルヲ付ヘシ是
モウムニツケル也一セシサシカウ是モウニス
マシキニヨシ付茶ニ可加也

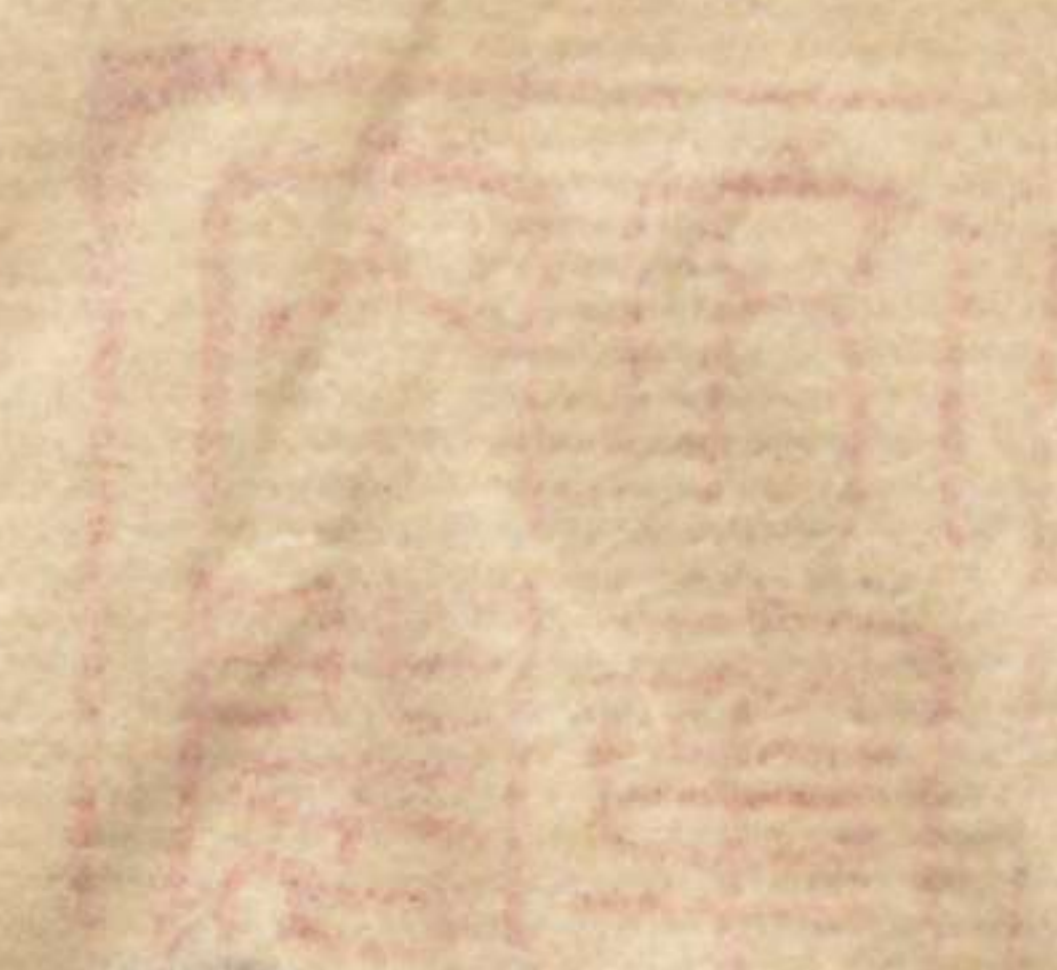
一 疵ヒリメキテ痛ハ山桃ノ皮ノコヲ捨リカ
クル也又ハ女ノ髪ノヲチ焼テモヨシ又コノ
油ヲモヌルヘシ

一 瀨イナギキ女ノ冬ニシ、ノ出茶也餘ニ暖氣シテ
ワルクハ老女ノ冬ニヨシヒ也シ、ノヲ丑カ又
ルニハ瀨イナギキ女ノ冬ニ細々疵ノ上ニハキカケサ
セヘシ

疵悪サウナカシ茶

一 生栗コ 赤小豆コ 熊タカノ黒焼 烏ノ
黒焼 右等分ニ合疵ノ上ニ炙ラセツ計リ
シテ其後枝茶ヲ可付又疵ニ木コヲエタ
ルニハ此茶付也コノ油ニテトクナリキジン
羽ニテ可付炙ハナスヒノ香ノ物ヲウスクヘキ
テシイテスヘシ本シ、ノ処ハ付間敷ソ女モ
ヨキシ、ニ付レハイヨクシ、キユル之悪シ、
又ハキノコ計リノ上ニ付ヘシ萬有口傳

疵ヨツニ成タル茶



桂心 耳中 肉豆蔻 クス 川大黃 青皮

右等分ニ合ソクイニテヲシマセ大觀錢ヲス

リテ其水ニテソクイヲユルメ可付 痲ヲヨケマ

ワリノハレタル処計ニ付也上ニ紙ヲサキテ

可付年ヨリ女ノタシニケク付也コレモヨキニ

ニ付レハシキエテアシキ也

ウヂノタツ菜

一カワラケニ酒ヲシメホシコニシテ山桃皮

ヲコニシテ此ニツラウヂノ出来タルニ檢リ

カクル也

等分ニ合也又コノ油ニテモ付ヘシ

一内茶ニハ四物湯ヲ可用之

地黄 川芎 當歸 赤芍 各等分 炙

手負狂氣ニハ

一手負ニタノキハヨリ手クヒテ取リテタナフ

ハロノ中ヲ十一計灸スヘシ

同内茶 イマタ男心ナキ女ノ小便ヲ

ノテスル也女ニハ同男ノガヲ用ヘシ又ツ子ノ五

キウノバヲ廿一サウ焼ヘシ

ソリニ成タルニハ

一ライハテノ骨ノ下ノ骨ト上ノ骨ノ間ヲ三十一

ソウ焼へシ

同狂氣ノ茶

一イシニ川ノ黒焼アサシラケノ水ニテケス萑カ
クレノアサアシケ馬ノ血ニテシメシテ黒焼ニシ
テ酒ニテケスナリ

シヤクリノキウ

一ツムチヲ十一ツウチイサクシテ焼へシ

一ムカイケニモミツヲチキウヒサキヲ指一ツ

フセラキテ十一ヤウへシ

一不食ニハ五ノカウ名ウニツヤイトウニ百計

灸スへシ

一四方一寸ニ紙ニエロウヲソクイニラシマセテヒ

タイニ可付疵ヤク病ノタメ也

木鋒ホウノ抜茶

一時鳥ノ黒焼赤トホウカケホシニシテ黒焼

赤キ蟻娘ノ黒焼野ヒルノ根ナツメノ実

黒焼ナシノワカユヲ影子ニシテ黒焼イ

ナコ虫ノ黒焼耳草大是ヲモミノ木ノヤニ

ニテ子リカタメ付上ニカミテ付へシ

一耳草計ヲモ疵口ニカミテ上ニ付へシ

一同枝葉 五月五日ニナシノ木ノワカハエヲ
取ソクイニラシメセ付也シヤウガクノ葉
ヲ上ニ付也

一同ナツメノサ子計モ黒焼ニメソクイニラ
シマセテ疵口ニ可付其ノ上ニシノハヲ付
一根止リテ二年モ三年モ抜サルニハ白鳥
ヲクレハシ當座ノ手負ニハクシマシキ

骨同筋継之事

一人ノホソノヲ、黒焼ニメ母親ノ葉指ヲツキ切
血ヲ出テスニ骨ニツケ其上ニ彼葉ヲ捨カケ

ヘシモシ切ハナシタルニハ其ヤヲ三分ニ切テ兩
ノ骨ノズイニ一分ツ、指ニ中一分アケテ筋
ノコトク親ノ血ヲカケ其上ニ彼葉ヲヒ子リ
カクル也 叔子シコヲカンカエテ若キ女ニ手
サキヲソト、ラエサセテヲクヘシリウコセニシ
コニシテ合テ口ニ可付女ナクハ男親ソレ
ナクハ兄弟夫モナクハ男心ナキ女ノ指ノ血
ヨシホソノヲニリウクセニヲ等分ニ合テ入チ骨
ニ捨リカクル

フ名ツキノ夏

軒菓ノコ 七月草ノ黒焼 名ニ草 是ヲ
糊ニ推シ合テ等分ニメ付イカラホトホシテ
下キ湯柳ヲヒラクケツリテ同ク皮ニテア
ミテ上ラテキユウシ内菜ニハ白菜ヲ可吞也
カフヲ錢ヲ水ニテ摺リテ其水ニテ糊ヲ丸メウ
ヌ糊ニシテ可付マツ折目ヲ青メナル石ヲ焼キ
塩表ヲカケテ湯ヲサテ其ノイキニテイカニ
モクシクムシテサテ引ノテ此養性ヲスヘシ痛
トモ能ク引ノシ七日ニ一度ツ上ノ菜又ユ柳
ヲ取替ヘシ何モ痛ム共トク更不可有之

三尊散

口傳有之血留

松茸ノ皮一分 葛ノコ一分 山ノイモ

右此三種ヲ各粉ニメ合疵ノ口ニ捨リカケテ
其上ニハコベノシルヲソケハ出タル口タモ入ル也
血ヲ留ニ寂上ノ秘菜也 葛ヲハ水ニトキ
テヌノニウスクト付テ日々サラシ又フル
イヲトシテ水ニトキテ又ノミユルクト三
度ウツクシクフルイ合スヘシ山ノイモヲ
ハ余ノ菜ヨリ少也努ク他見有間敷
也

源氏ノウス色キ菜

一ヒツキノコ 一葛 是ヲ合テ付菜ニモヨシ
吞菜ニモ吉 天観鏡 三文ニテ一スクイ一
色ニ吞也 白菜ニモ如此也 気菜ニモヨシ常
ニモ吞テヨシ

吞菜

一トツ活ノ白ニ 一烏丸ノ粉 一七日焼タル
塩ヲ湯ニテモ又ハ水ニテモ 其時ノ様ニ
ヨリ可吞也 モウくトニ 気悪ハツメ
タキ水ニテテシ サヤウニナクハ湯ニテ吞成

疵禁物

一油ケ	一メン類	一餅	一牛房
一今若	一ハシカニ	一生大根	一山柝
一サ、キ	一大豆	一山里庄ニイモ	
一アラナ	一ワラヒ	一クルニ	
一マタリ	一ツバ	一クサヒラ	
一キシ	一糶	一鞋	
一白鳥	一惣別生菓	一栗	
一桃	一クミ	一アケヒ	
一キフリ			

疵膏菜

一 松ヤニ 一 牛麻油 一 青木草 一 スイカツラ
 一 ツクツ 一 庭トコハ 一 熊篠 一 ラハコ
 一 ハコヘ 一 栗ノ木皮 一 百部根 一 菘コフ
 右油ノ加減ヤニ器物八盃ナラハ油ヲ
 天目一盃ノツモリ也但シ復冬ニヨリ加減
 可替復ハサヒカハ冬ハ少過ス心持ナリ
 炭物各手一束ニ切三把宛取合脂ノ
 炭シ其シル工彼ヤニヲ油ニテ子リ入テ
 日ニ三度ツ、彼ノシルヲアタメテ七日

能く可洗也條く口傳者く

小笠原大膳大夫

長時

日 右迎大夫

貞慶

山沈甚忠

貞成

典義家臣阿部

古此一典當家別而雖為
銜秘吏任御執心懸記
進之候勞之跡早不他見
者也



山崎氏千立林源貞氏

享保戌戌暮春中旬寫之據於



